

ほたるっ子



磐梯第一小学校
学校だより
NO. 58
R4. 11. 8
(文責: 校長 菅家 篤)

ドリーム&チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

最優秀賞受賞!



~「福島発のキュウリビズ 愛情込めてキュウリ栽培大作戦」~



県内の小学生が育てたキュウリの観察日記、キュウリを使ったレシピを募るコンクールにおいて、3年生が応募した作品が、見事最優秀賞に輝きました!

6月から約3か月間育てたキュウリについて、大きな模造紙ほどの紙にまとめた作品は、ダイナミックで、見る人の心を惹きつけ、キュウリに対する子どもたちの愛情が感じられる素晴らしい作品に仕上がりました。審査の観点は、「愛情度」「観察力」「描写力」で、私は特に、作品から感じられる「愛情度」が高く評価されたのではないかと思います。

表彰式は、12月20日(火)に福島市で開催される予定です。

**3年生の子どもたちが心を込めて作った作品を
福島民報本社を訪れ出品する担任の先生(9月)**

先週のマラソン記録会では、10名の見守り隊の皆様、7名の保護者ボランティアの皆様のご協力のおかげで、大きな事故等なく記録会を実施することができました。改めて感謝申し上げます。大変お世話になりました。

さて、数年前の福島民友新聞の編集日記にこんな話が載っていました。

◆大腸がんを克服した陸上競技指導者の金哲彦さんは、著書『走る意味 命を救うランニング』(講談社現代新書)に「ガンには闘う相手である“外敵”や“老い”が存在せず、闘う相手はあくまで自分自身と治療の苦痛」と記す。◆そして『走る』ことは、『生』を実感させてくれます。だから、走る意味は生きる意味にも通じているのだと思います」と、治療後に出場したフルマラソンなどを振り返りながら冷静に自分自身を見つめる。◆がん発祥の要因の一つにストレスによる免疫力低下がある。金さんは走ることでそれをためず、再発を防いでいるのだろう。

子どもたちにも「生」への実感を感じてほしい

子どもたちには、学校生活の中で、「生きている」という実感をもってもらいたいと強く願っています。何かに本気で取り組んだり、熱中したり、何かを思いっきり楽しんだりすることで、「生」への実感や喜びを味わうことができるのだと思います。長い距離を走った子どもたちは、自分の心臓の音がバクバク聞こえたり、息が上がったり、汗をかいたり、生きている実感を感じたのではないかと思います。



「生きている」
「実感」

